

載に参ります。御用事の中をばお手止めまして相濟ん事で、左様なら御免……」

「ハハ、何ぢや、犬を貰ふのに仰山ナ、歸つて主人に話をしたら定めし嬉ぶやなんて、大層にものを云ふ人や、コレ丁稚こども、今のお方の言ふてやつた事を聞いたか、彼の人は犬を貰ひに來たのやないで、其方そちがあんまり犬を可愛がるよつてに、彼方あいつの家は大氣狂ひぢやに依つて黽むげんつて遣ろうかと、近所の若衆が黽むげんりに來たのぢや、モウ犬を可愛がるのも善し惡ぢや、好い加減にしときなされ」

「ヘエ」

其れから一ヶ月も経ちますと、若い者を連れて、

「エ、御免、エー過日は参りまして御面倒仕つりました。オ、之れは御主人でござりますか、エー此間は参りまして御面倒を仕つりました。彼れより歸宅を致しまして主人に話を致しました處が、主人も大きに喜びまして、お貰ひに行くなら吉日を選んでと云ふ事で、幸ひ今日は天赦日なり日柄も宜しうござりますのでお約束の犬を頂きに参りましたと云ふ様な事で、是は誠にお粗末な品でござりますが、頂戴致しまするお禮と申しますのも、ゑらいおかしうござります、些少ほんの印と思召しまして、お收めが願ひたうござります」

「ア、さようか、マアどうぞお掛けなされ、これ丁稚こどもよ」

「ヘエ」

「茶ちやを一つ汲んどいなされ」

「どうぞお庇おほいひなく」

「サアどうぞお掛け、敷おきとくなされ」

「ヘイ、どうぞ」

「此間犬を差上さあ申すと約束をしましたが、折角やがあの話は變改ぢや、お斷り申します」

「ヘエ、そうしますと何ぞお氣にいらん事がござりますか」

「ハイ、氣にいらん事がある」

「ヘイ何がお氣に障りましたか存じませんが、お氣にいらん事を仰つしやつて下さりませ」

「尋ねなさるなら申しますが、私は此町内に永らく住んで居ります、向方むいて歩きたい、人様から後指を指されるのが嫌ぢや、世間普通なの事がして貰ひたい、と云ふのは私は猫の仔一疋遣つた事も無ければ、貰ふた事も無いが、鯉節こひぶねの一本とか、雑魚の一掴みとか持つてお出になつたなら、サアくくと云ふて犬を進あ上あますが、他人さんの持つてお越になつた品物に値打を入れて濟まんが、お酒が五升に鯉節が一箱此様な立派な物を貰ふて犬を進あ上あしたら、彼方の家は貰ひ物に目が眩れては物を遣つたと世間から云はれたら、私は此の町内に居る事が出来ぬ、今日の世の中に其様な事は無いが、之れは譬ごとで云ふのぢやが、お前さん處の家に、如何に介抱しても平癒らぬ病人が有つて、或る